

## I. 導入

おはようございます。先週、私たちは、生まれつき足の不自由だった人が奇跡的に癒された個所を学びました。中心聖句は使徒 3:6 でした。「ペトロは言った、『わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。』この簡潔な言葉により、神の 때가満ちてこの男性が解放される時が来たことをペトロは告げました。この男性は癒されると、立ち上がり、(使徒 3:8)「躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入ってしまった。」この人にとって、またこの人を大切に思う人たちにとって、この日はまさしく喜びの日であり、神を賛美すべき日でした。イエスの名によって、この男性は新しいいのちを得ました。物乞いをする古い人生は過ぎ去り、喜びと自由という新しい人生を代わりにいただいたのです。



ペトロとヨハネ、そして癒された人が神殿の境内に入ると、それを見た人が皆驚きました。使徒 3:1 によると、ペトロとヨハネは祈りの時に神殿に行ったとありますから、この後、彼らは午後の祈りのために毎日来ていた人たちと一緒に、祈りと感謝をささげたことでしょう。

この写真は、イエスが地上におられた時代の神殿の様子をあらわす模型です。よく見ると、神殿の左側に、高い柱の並んでいる部分があります。ここは、ソロモンの柱廊またはソロモンの玄関として知られている場所です。ここは、高い柱の並ぶ高天井の広い空間で、たくさんの人たちが集まることができました。



こちらはソロモンの柱廊部分をあらわす模型のクローズアップ写真です。今日の聖書箇所は、ペトロとヨハネ、そして癒された男性が、祈りをささげた後この場所に行く場面です。人々が集まってきたので、ペトロはたくさんの人にイエスのことを話す機会だと思い、力強いメッセージを語ります。では、使徒言行録 3:11-26 を読みましょう。



## II. 聖書朗読 使徒言行録 3:11-26 (新共同訳 1984)

3:11 さて、その男がペトロとヨハネに付きまといっていると、民衆は皆非常に驚いて、「ソロモンの回廊」と呼ばれる所にいる彼らの方へ、一斉に集まって来た。 3:12 これを見たペトロは、民衆に言った。「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか。 3:13 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとして決めていたのに、その前でこの方を拒みました。 3:14 聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。 3:15 あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。 3:16 あなたがたの見

て知っているこの人を、イエスの名が強くしました。それは、その名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのです。

3:17 ところで、兄弟たち、あなたがたがあんなことをしてしまったのは、指導者たちと同様に無知のためであったと、わたしには分かっています。 3:18 しかし、神はすべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦しみを、このようにして実現なされたのです。 3:19 だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。 3:20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださるのです。 3:21 このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。 3:22 モーセは言いました。『あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え。 3:23 この預言者に耳を傾けない者は皆、民の中から滅ぼし絶やされる。』

3:24 預言者は皆、サムエルをはじめその後に預言した者も、今の時について告げています。 3:25 あなたがたは預言者の子孫であり、神があなたがたの先祖と結ばれた契約の子です。『地上のすべての民族は、あなたから生まれる者によって祝福を受ける』と、神はアブラハムに言われました。 3:26 それで、神は御自分の僕を立て、まず、あなたがたのもとに遣わして下さったのです。それは、あなたがた一人一人を悪から離れさせ、その祝福にあずからせるためでした。」

### III. 教え

そこには、いろいろな人たちが集まっていたでしょう。若者、老人、裕福な人、貧しい人、有名な人、無名な人、さまざまだったでしょう。ローマ帝国の看守、ユダヤ人の学者、漁師、商人、などもいたでしょう。イエスの福音はすべての人のためにあるので、これはとてもふさわしいチャンスです。ユダヤの指導者もそこにいました。そして、使徒4章を読んでいくと、ペトロのメッセージが原因で、ペトロとヨハネは捕えられてしまいます。しかし、二人はそれでも喜んでいたと思います。なぜなら、そのことによってイエスの名を宣べ伝えるチャンスがさらに与えられたからです。



ペトロのメッセージは短いながらも、力強いものです。ペトロは、成就した預言と預言者の権威を根拠に、起こったことのすべては神のご計画どおりであったと主張します。ペトロはまた、アブラハム、イサク、ヤコブ、モーセ、サムエルなどの名を挙げ、すべての預言者がイエスの死とよみがえり、そして教会の始まりについて語ったとも言いました。そして、十字架刑、復活、およびイエスの昇天と再臨についても語りました。その背景となる参照聖句を今すべて読むことはしませんが、週報にいくつか挙げています。よければ今週、ご自分の時間にその箇所を見てみてください。これらの箇所を読んでから、再度ペトロのメッセージを読むと、とても祝福されると思います。

今日は、ペトロのメッセージのいくつかの重要ポイントに注目していきたいと思います。ペトロはまず疑問を投げかけます。(使徒3:12) 「これを見たペトロは、民衆に言った。「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか。」ペトロはイエスの名によって語り、すばらしい奇跡を行いました。それは、生まれてから40年以上も足の不自由だった人を癒すという奇跡でした。これは驚くべきできごとで、そこにいた人々は皆、仰天しました。しかしペトロは、「なぜこのことに驚くのですか。」と尋ねました。これはもっともな質問です。というのも、旧約聖書には、イスラエルの歴史上起こった多くの奇跡が記されているからです。また、イ

エスも人々の前で多くの驚くべき奇跡を行いました。それなら、神がさらに奇跡を起こされたからといって、なぜ驚くべきなのでしょう。

ペトロは、こう問いかけることによって、誰が奇跡を行ったかという問題を取り上げました。ペトロは、自分にもヨハネにもそのような力はないと指摘しました。ペトロは、自分の名によってではなく、イエスの名によって語りました。使徒 3:13a でペトロはこう宣言しています。「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。」奇跡を行う力は神のものであり、癒しという奇跡の目的は、イエスに栄光をもたらすことでした。先週もお話したとおり、すべてはイエスのためなのです。ペトロは、使徒 3:16 でそのことを明らかにします。「あなたがたの見て知っているこの人を、イエスの名が強くしました。それは、その名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのです。」

ペトロが足の不自由な人に話しかけたとき、ペトロはイエスの名によって語り、イエスを信じるというペトロ自身の信仰を宣言しました。そして、その男性が応答して立ち上がったとき、彼もまたイエスの名を信頼し、信仰によって応答したのです。当初は、この男性の信仰はほんのわずかなものだったかもしれません。しかし、ペトロが差し伸べた手を握って、自分の足の力を試してみるに足るものでした。ペトロが彼を立たせると、男性はたちまち足にもくるぶしにも力が入って、立つことができました。奇跡は、人ではなく、主が起こしてくださるのです。しかし、足の不自由だった男性のように、私たちにもイエスの名を宣べ伝えてくれる人が必要です。そして、イエスを信じるよう呼びかけてくれる人が必要です。ペトロはこの男性のために、そして、そこにいた群衆のために、それをしました。

けれども、最初にペトロがしなければならなかったのは、聴衆に救いの必要性を感じさせることでした。人が自分の罪に気づいていなければ、救い主の必要性も感じません。そこでペトロは、聴衆に向かって、彼らにはイエスの十字架上の死に対する責任があると語ります。(使徒 3:13b-14) 「ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとしていたのに、その面前でこの方を拒みました。3:14 聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。」

このほんの少し前、おそらく 2-3 ヶ月前のできごとでしょう。ピラトがイエスを釈放しようと言うと、怒った群衆は、人殺しのバラバをイエスの代わりに釈放するよう迫りました。そして、イエスについてはどうしてほしいのかとピラトが尋ねると、群衆は「十字架につけろ」と叫んだのです。今日の聖書箇所、使徒 3:15 で、ペトロはこう続けています。「あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。」

新共同訳聖書で、「命の導き手」とある部分は、英語聖書の NIV 訳では「命の著者」、日本語の他の聖書では「いのちの君」と訳されています。「命の著者」という訳は、イエスが命の源であることを強調しており、「いのちの君」という訳は、イエスが命あるものすべての支配者であることを強調しています。私は、「いのちの著者である方を殺してしまいました。」という訳がより説得力あるものだと思います。命のもとであり、命を守るお方を殺すとは、これ以上もなく恐ろしい罪です。



本の登場人物が本を飛び出して、本の著者を殺してしまうなんてありえるでしょうか。著者は、それぞれの登場人物に命を吹き込み、登場する場面を与えた本人です。イエスは、アルファでありオメガ、始まりであり終わりです。そして、命の源です。イエスは、私たちに命を与えてくださり、神の歴史上に生きて、この世での神の働きに加わるよう招き入れてくださったお方です。イエ



スは、私たちの命をその御手の中に握っておられます。しかし、主が十字架についておられた時ですえ、私たちを握り潰すことはなさいませんでした。それどころか、彼を苦しめている人々を十字架上から見下ろし、こう言われました。(ルカ 23:34a)「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」

私たちは、知らないことが多いのです。自分のしていることがわからないのです。けれども、無知だから無罪とは言えません。知らないことは多くても、誰にも善悪の観念が備わっています。そして、悪いと分かっていたしてしまっただことが誰にもあるはずでず。みことばは真理を語ります。私たちに責任があります。それは私たちが皆、罪を犯したからでず。その日、神殿の丘のソロモンの柱廊でペトロが語った人々の中には、エルサレムに着いたばかりの旅人もいたでず。また、エルサレムに住んでいても、イエスがピラトに有罪を言い渡され、人々に見捨てられ、十字架上にかかれた時にその場にいなかった人もいたでず。

それでもペトロは、すべての人にこう言いました。そして、今日、私たちにそう語っています。(使徒 3:15)「あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、」有罪でず。無罪の人は誰一人いません。イエスの死に対する責任を私たちが皆負っているのです。それで終わりなら、とても悲しい結末でず。しかし、そこには、「が」という一文字が入っています。この「が」というたった一文字は、大きな違いを意味ます。命の著者は殺されました。「が」「神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。」



復活は、苦しみと死という悪い知らせを、赦しと永遠のいのちという良い知らせに変えます。復活によって、十字架は残酷な処刑の手段から、栄光ある命の象徴へと変わったのです。しかし、この喜びを自分のものにするには、まず信仰によって応答しなければなりません。使徒 3:19「だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。」ここに二つの部分があることに注目してください。ひとつめは悔い改めです。悔い改めは不可欠でず。けれども、悔い改めだけでは十分ではありません。

これについてももう少し考えてみましょう。もしあなたが今までの罪をすべて悔い改め、それ以後いっさい罪を犯さなかったら、それで救いを得られるでずしょうか。多くの人はそうだと考えます。多くの宗教は、修行などで人が罪を犯さなくなるように教えようとます。それは、人が罪を犯さなくなれば、救われると考えているからでず。では、ちょっとした例えを使って考えてみましょう。

美しいウェディングドレスがありました。あなたはそれに油性のインクをこぼして染みをつけてしまいます。あなたは心から反省し、二度とウェディングドレスにインクをこぼさないと固く決心ます。そしたら、このウェディングドレスは結婚式で着られる状態になるでずしょうか。そんなことはありません。今後いっさい何もこぼさないよう細心の注意を払ったとしても、一度付いてしまった染みは取れないのです。



だから、二段階必要になるわけです。使徒 3:19「だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。」私たちが悔い改めなければなりません。しかし、それだけでなく、神に心を向ける必要もあいます。そして、イエスを信じることによって神に心を向けるとき、私たちの罪は消されます。驚くべきことに、これまでの罪に留まらず、まだ犯していない将来の罪も消し去られるのです。神の恵みあわれみは、本当にすばらしいのです。

神の恵みにより、そして、イエス・キリストの成してくださった十字架上の御業により、私たちは清められ聖なる者とされます。私たちが、神の義をまとい、キリストの花嫁である教会と

して、結婚式の祝宴に行けるようになります。

#### IV. 結び

罪に背を向け、イエス・キリストを主であり救い主として信じることによって神に立ち返りましょう。そうすれば、神の恵みあわれみを体験し、神の愛に永遠に包まれ、新たにされるでしょう。イエスをすでに信じているなら、イエスの再臨のときを迎える準備ができています。ペトロはこの再臨についても、**使徒 3:20** で語っています。「こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださるのです。**3:21** このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。」

ではお祈りしましょう。

#### V. 祈り

愛する天の父よ、

あなたのすばらしい知恵と尽きることのない恵み、永遠の愛を感謝します。あなたが救いの道を備えてくださったことを感謝します。それは、死から命へと渡ることを可能にした十字架という架け橋です。あなたの目に喜ばしくないことすべてに背を向けることができるよう助けてください。そして、あなたの御子イエスを信じ、あなたに立ち返ることができるよう助けてください。愛に満ちた主イエスよ、あなたがこの世に来て、私たちの罪の代価としてご自分のいのちをささげてくださったことを感謝します。それは私たちが救われるためでした。あなたの聖なる御名をたたえます。どうか、あなたの御霊を私たちの心に送り、あふれるほどに満たしてください。主よ、あなたの民に聖霊を注いでください。私たちを清め、あなたの臨在の中で新たにしてください。どうぞ来てください。そして、あなたの民の必要を満たしてください。あなたはすべての必要をご存知です。悲しむ人には慰めを、弱っている人には力を、病んでいる人には癒しを、貧しい人に備えを与えてください。あなたの尽きない愛とあわれみによって、民の必要を満たしてください。あなたの栄光のために、そうしてください。主よ、あなたに栄光がありますように。私たちの人生で、家庭で、教会で、そしてこの地の至る所で、あなたの栄光があらわされますように。あなたが力をもって再び来られるその日のために、あなたの教会である私たちを備えてください。イエスの尊い御名によってお祈りします。アーメン。